キウバ島のハヾナ府

一九四

人は、犬に注目せざるべからず。

墨西哥は、東墨西哥灣に濱し、山脈國中に連りて、一般に高地をなす。產物は、金、銀、砂糖、穀類、家畜等あり。西方のカリホルニヤには、世界第一の銀坑あり。

我等は、南、高地に進みて、首府墨西哥に

遊び、郊外の佳景を賞し、然る後、東海岸に出でて、西印度に向ふ。

西印度群島は、墨西哥灣の東に列りたる無數の島嶼を云ふ。氣候炎熱にして、植物の生育盛なり。キウバ島は、合衆國の領地にして、首府ハヾナは、砂糖、煙草の貿易盛なり。我等は、更に歩を轉じて、中央亞米利加に渡る。

中央亞米利加とは、ガテマラ、ホンヂュラス、サンサルバドール、ニカラガ、コスタリカの五共和國を總稱す。炎熱甚しき處なり。近年ニカラガ湖を利用して、東西に通ずる運河を開かんの計畫あり。我等はやがて、パナマ地峽を經て、南亞米利加に入る。

参照　墨西哥府は、國の首府にして、中央の山地にあり。人口三十餘萬。七

千五百尺の高地にあるが故に、氣候清涼に、山巒四方を繞りて、湖水其内に表はる。誠に風光明媚の好土たり。就中、ポヽカトペトルは、一萬七千尺の活火山にして、高く雪線上に聳へたり。

圖解　キユバ島のハヽナは、世界に著名の砂糖産地と稱せられ、ハヽナ卷煙草の、世界の市場に名聲を有するは、我等の共に等しく知る所なり。ニカラガ共和國の南部に、ニカラガ、マナグワの二大湖あり。目下工事中のニカラガ運河は、此二大湖を利用して、東西兩洋を連絡するものにして、全長七十餘里、此内利用すべき水路を除けば、僅に十數里に過ぎず。今や著々其歩を進め、パナマ運河の失敗に歸して、成工の期なきが如きものにあらず。此擧にして落成の運に至らば、大西洋の船舶は、直に此より太平洋に來るべきを以て、東洋諸國の貿易屆一屆の盛を見るべく、我國の如きも、頗大なる影響を受くべきや必せり。

第三十六課　南亞米利加洲總論　北部諸國

注意　本課にては、南米の位置地勢山河、人口等を説示する者なり。

パナマ以南の大陸を、南亞米利加洲と云ひ、南端は、ホルン岬を以て、近く南氷洋に迫れり。地形は北米の如く、略三角形をなし、海岸は出入少し。

西に、アンデスの高き山脈ありて、南北に連り、東にブラジル山脈ありて、其間に一大平原を抱けり。北にはパリメ山脈ありて、大平原の北界をなす。

本洲の平野は、地勢によりて、三大部に分れ、オリノコ・アマゾン・ラプラタの三大河、是を貫流す。アマゾン河は、世界第一の大河にして、アンデス山中より發し、多量の水を瀉し、洋々と

して大西洋に注ぐ。

南亞米利加の動植物

南部は、溫帶に位し、氣候溫暖なれども、他の大部分は、熱帶にあるが故に、暑氣强く、雨多し。されば植物の生育極て盛にして、各種の良材、及び多くの甘蔗・珈琲・「ココア」・幾那等を產す。動物は、亞米利加虎・貘・野牛・犰狳・尾長猿・食蟻獸・鴕、及び諸種の家畜あり。鑛物は、金・銀・岩鹽・金剛石等あり。

住民は、殆ど北米と同じく、歐羅巴人種大部を占む。

パナマを過ぎて、南に進めば、コロンビア合衆國に入る。其東にベネズエラ共和國、及びギアナあり。ギアナは英領・蘭領・佛領の三部に分る。

圖解 圖中上位の大鳥は、コンドルと稱する鷲の一種にして、アンデス山頭一千丈以上の高所に栖止す。

次はラマと稱する駱駝の一種にして背には肉峯を有せず、體は小なれ

とも、よく重荷を負ひて峻坂を上下し、又其毛は美脆にして織物を製すべし。

次は食蟻獸と稱する夜獸にして、大小種々あり。大なるは前頭より尾毛の端迄を算すれば、六尺に及ぶ、尾長大にして全體の三分の一あり。長毛茸々たり。嘴細くして齒を有せず、細尖なる舌を出して、蟻を舐食す。此舌を蟻塚に穿入するに當りては、二尺に伸長すといふ。眠る時には、尾を以て全身を覆ふ。

次に少しく右なるを、犰狳とす、即、アルマヂロなり。全體に數多骨質の堅甲を蔽り、物に恐るゝ時は、忽ち其中に縮み入ること龜に似たり。大さ尺内外あり。食事の樣、食蟻獸に異ならず。

次に直立せる大木は、幾那樹にして、下部に花葉の擴大を示せり。この木は、ペリウ國の原產なるが、今は印度爪哇等に栽培せらるゝに至れり。これ熱を治する幾那鹽の原料植物にして、刀圭社會に、もてはやさるゝものは、即ち此樹皮より製せるなり。花は稍紅色を帶べる、五瓣の筒狀花にして、其簇生せる樣、如何にも美脆に、尖頭鈍稜圓形の鮮綠色なる葉は、一見群樹中より見分けらるゝとぞ。

參照

コロンビヤは、面積我國に三倍すれども、人口十分の一に當らず。國の東北部は、アンデス山脈三派に分れて蔓延し、西南部は、ヲリノコ・アマゾンの水源に當り、土地低平にして肥沃なり。

首府ボゴタは、アンデス山中、九千尺の高地に位す、此地は一年二回の霖雨ある外、終歲天氣清朗なり。特に此府は高原にあるを以て、赤道下にありといへども、終歲春の如し。

ベネヂュラは廣さ我の三倍半もありと雖も、人口僅に我の二十分の一に過ぎず。オリノコ河、國の中央を東西に貫流し、其河領は廣漠たる平原

にして、乾期には野に青草なく、滿目荒寂たれども、一旦濕期に達ひ雖雨降るに至れば、植物一時に繁茂し、幾百萬の野馬・野牛、群をなし、草間に起臥するを見ん。

首府カヲカスは、人口我金澤に似たり。北部海岸の高地に位し、商業盛なり。

ギアナは、大西洋に面せる海岸一帶の地は、低くして殆と海面に等しけれども、南部ブラジルに接する境に至るに從ひ、土地次第に高度を增し、高さ一萬尺に達する高山の連亘するを見る。故に內地の河流は、至る所急湍瀑布をなし、奇景妙勝云はん方なし。

第三十七課　東部南部・西部諸國

注意　本課に說く所の諸國中、最も我國に關係あるは、伯剌西爾及秘露の二共和國にして、近來移民出稼をなす者、多きを加へ、國交親密の度を增すに至れり。これ特に注意すべきことゝす。

珈琲畑

ギアナの南にある大國を、伯剌西爾共和國と云ふ、氣候甚だ暑くして、盛に珈琲・棉・煙草・材木等を產す。殊に、珈琲は、主なる產物にして、世界總產額の半を占むと云ふ。金剛石、及び金も有名なる產物なり。

リオデジャネイロ及びアマゾン河

此國は、我條約國にて、首府リオデジャネーロには、我公使館あり。アマゾン河の支流を遡れば、ボリビア共和國に出づ。

ボリビアより、ラプラタ河に沿ひて下れば、パラグエー・アルゼンチンの二共和國あり。其東にウ

ルグエー共和國あり。パラグエーよりは、一種の茶を産し、廣く南米に用ひらる。アルゼンチンの首府ボーナスエー

ペルウの景

アンデス山の高架鐵道

リズは、本洲第一の大都會なり。府の南に「パンパス」と云ふ草原あり、多くの野牛徘徊す。是よりマゼラン海峽を過ぎて、チリーに入る。

チリー共和國は、山多く、細長き國にて、首府サンチアゴは、地震多きを以て名あり。

此北に、秘露共和國あり。我條約國なり、穀物・銀・硝石・幾那・烏瑣等を產す。此國は、明治の初より、我と交通したる國にして、近年、我移住民の赴くもの多し。首府リマは、海岸近き高地にあり。

我等は、是より、エクヱドルに到りて、南亞米利加の周遊を終り、便船を待ちて、桑港に到り、更に、太平洋を渡りて、無事横濱に歸る。

參照　伯剌西爾は、南亞米利加の東部に位し、最大最要の國にて、本洲の殆ど半を領し、チリ・エクアルドを除けば、各國皆堺を接せり。面積は、我國の二十倍に當るといへども、人口は三分の一に過ぎず。多くは海岸の地、大河の畔に稠集せり。

地勢　國の東南部は、ブラジル山脈、數派に分れて蜿蜒し、ブラジル高原をなせども、西北部アマゾン河畔の地は、廣大無邊の原野にして、深林、鬱蒼暗く、珍禽奇獸、其間に徘徊す。所謂「林原」これなり。

此平野の間を貫流する世界第一の大河アマゾンは、源をアンデス山に發し、東流一千五百里、大西洋に注ぐ。我國の最大河石狩川の如きは、其九分の一に當らず。川幅廣き所三十里に達し、深さ二百尺に及ぶ。大船の航路八百里、小舟は遠くアンデス山麓に至るべし。又此川は、水量豐かに流緩なれば、河口より二百里の上流に至るとも、猶潮汐を感ずといふ。兩岸

の綠樹高く空を凌ぎ、蕁麻低く水に垂るゝの間、欵乃遠近に聞え、白帆の往來する樣、宜しく國につきて察すべし。

産物

主要たるものは、珈琲砂糖を最とす。就中、珈琲は、其産額夥しく、全世界産出額の三分の一を占め、毎歲の輸出十億斤に上るといふ。又、甘蔗砂糖の産額の多きは、西印度を除きては、世界中これに及ぶものなし。其他、護謨、穀物、木綿、煙草等の産額亦少からず。

首府リオデヤネーロは、人口五十二萬餘あり。リオデヤネーロ灣に臨む、灣は、水深く港内廣くして、無限の船舶を收容するも、綽々餘裕あり、商業活潑、南米第二の都會とす。我國の公使館あり。

此國は、近年我國と條約を結びしを以て、通商年を追うて繁を加ふべし。特に、我東洋移民會社は、移民契約を結び、我公使館の西南に當れる一帶の地方、面積三萬方里を以て、我移民者の勞働地と定めたり。全部土地肥

沃、珈琲の栽培に適し、前途有望の地なりといふ。

ボリビヤは、廣さ我國の三倍半に當れり。アンデス山脈の一派、國の西部を南北に連亘し、東部亦、ブラジル山脈の餘脈ありて、中央に豐饒なる一大平原を殘せり。物産の重なるものを銀とし、輸出額の二分の一を占む。

パラグエーは、大さ殆ど、我本邦九州に同じく、人口東京に似たり。アルゼンチンは、本洲の南部を占むる第二の大國にして、面積我國の十倍に當るといへども、人口甚だ少く十分の一に當らず。ウルグエーは、大西洋に面せる小國にして、我國の二分の一に過ぎず。

ラプラタ河は、此等三國を貫流し、大西洋に注ぐ。此流域は、即ち有名なるラプラタ大平原にして、一望際涯なく、青草深く繁りて、幾百萬の野馬野牛、群をなせり。我等此地に遊ばゞ、土人の盛に飛組を投げて、牛馬を捕ふるを見るべし。彼等は、獵取したる生肉の如きは、顧みる所にあらず、只、革

皮のみを收めて、足れりとするのみ。

都府　圖に示せるは、リオデヤネーロの海灣に臨める風景なり。此地より船に乘じ、海岸に沿ひて南下すれば、ウルグエーの首府、モンテビデオに到るを得ん。人口、我國の名古屋に匹敵し、貿易隆盛の都會なり。これよりラプラタ河を溯れば、忽にしてアルゼンチンの首都、ボーノスエーリスに達せん。此府は、市街の繁盛なる、南米第一と稱せらる。人口七十二萬餘あり。

參照　智利は廣さ殆ど我國に二倍し、南米中最も開化したる國柄なり。秘露に先だちて、獨立共和國を組織せり。サンチアゴは、此國の首府にして、人口三十一萬餘、西海岸に於ける南米第一の要港たる、バルパライソとの間に、鐵道を敷設し、兩地の連絡を完うせり。此府も、亦リマと同じく、地震を恐るゝが爲めに、高屋を見ることなし。

秘露は、南米諸國中、他國に先き立ちて、我國と親交を結びし國にして、其廣さ、我國の四倍に當れり。

アマゾン源頭の地は、農產物に乏しからずといへども、此國主要の物產は、鑛物を推す。就中、銀の產額夥しく、金の採掘は、近年漸く衰へたり。硝石と鳥糞とは、沿岸地方の重要物產にして、幾那皮は、アンデス山林中より、夥しく採集す。首府をリマといふ。アンデス山西の大都會にして、人口十三萬、市街壮麗、家屋美麗なり。此府は、地震の多き地なるを以て、家屋は、扁平にして、窓戸に玻璃を用ふることなし。

圖解　圖中左方は、秘露國首府リマより、東北ヲロヤに通ずる鐵路、アンデス山脈、一万五千尺の高地を過ぐるの景を示す。千尋の谷に架し、萬仞の峰を貫く、其景實にいふべからず。左側は崎嶇羊腸たる山路、土人のラマを驅りて、荷物を運搬する樣を寫す。

又右方の圖は、山谷の兩岸、蒼蘿を組みて橋となし、土人の往來に便するものなり。

參照　エクエドルは、我國に比すれば、恰も本州と北海道とを合せたるに似たり。人口は、我東京に及ばず。首府をキートーといふ。我等此地に遊はゞ、氣候甚だ清涼にして、到底赤道直下にあるを信ずる能はざるべし。これ、九千五百尺の高原に都せるが故なり。又家屋多く竹造にして、其低きに驚くなるべし。これ地震の多きに恐れて、其害を避けんと企だてたるなり。今より百年前に、リサバンバ府の如きは、一市全く地震の爲めに破壞の慘狀に逢へりといふ。

第三十八課　結論一

注意　本課にては、前來說示したる世界の形勢を總括し、人民の文野、人種の區別、政體の異同等を說く者なり。

我等は、世界を周遊して、世の有樣の、極て複雜なるを見たり。時としては、亞弗利加、大洋洲の土人の如く、性質愚昧、風俗劣等にして、禽獸の如き生

人民の文野

活をなすものを見しことあり。此の如きを野蠻の民といふ。又、歐・米諸國の如きは、人智開け、政治良く整ひ、生活高尚にして、風俗の美はしきを見たり、此の如きを、開化の民と云ふ。

世界の人種は、其數十五億餘ありて、土地の異なるに從ひ、容貌・骨格・性質等に、著しき相違あり、今之を大別して、黃・白・褐・赤・黑の五人種とす。此中、人數最も多く、性質勝れ、生活の有樣進歩したるは、黃・白の二種なり。其他は、劣等の狀態に在りて、人數も甚だ少し。是等諸人種の信仰する宗教も、亦、大に異なり、黃人種は、重に佛教を信じ、白人種は、基督教・回々教を信ず。其他の種族は、日・月・火・水を拜し、或は、禽獸を祭るもありて、種類甚だ多し。

又、國によりて、政治の有樣大に異なり、我國及び英吉利の如

きは、上に君主を戴き、憲法に遵ひて、政を行ふ、之を立憲君主政治と云ふ。又、支那・露西亞の如く、憲法を定めず、君主の意のまゝに政を行ふを、專制君主政治と云ふ。又、佛蘭西・北米合衆國の如く、君主を戴かず、國民中より、德望ある人を公選して、國政を委任するもあり、之を民主政治と云ふ。

參照　我等が、以上學びたる所に就て、各地方人民の模樣を考ふる時は、實に非懸隔の甚しきに驚くならん。即ち亞弗利加・亞米利加・大洋洲中の土人の如きは、飢えて食を求め、爭ひて鬬ふの外、一定の職業なく、所在に漂泊して、漁獵を事とし、樹洞・土穴にあらざれば、茅舍・天幕を家屋とし、裸體・跣足は、其常にして、往々獸皮を身に被むるを見るのみ。風俗野鄙にして、禮讓の何たるを解せず、性殘忍にして、殺戮を意とせず。學問開けず、法律具らず、從て政府なく、各人協同の心に乏し。常に散居して、個々の運動

をなし、僅に小部落の酋長あるを見るのみ、かくの如きを野蠻の民といふ、されど、我國及び歐米諸國の如きは、禮儀を尚び、自由進歩を希ひ、農商、百工の業、盛に行はれ、政事法律よく整ひ、生命財産の權確立して、猥りに他人の侵害を受くることなく、教育洽く布き、人智開け、學術進歩して自然を制服し、萬里の遠きも猶ほ比隣の如く、瞬時に、萬國の音信を聽くを得べし、人類中の、最も幸福を享くるものといふべし、之を開化の民といふ、民度の階級は、確然文野の二に別るゝものにあらず、猶ほ、其中間に立つものあるを忘るべからず、例へば、支那、朝鮮、南米、獨立諸國の如き、教育洽からず、制度法律の設なきにあらざれども、充分ならず、かゝる民を半開の民といふべし、

人種

世界住民の數、凡十五億人なり、細に之を觀察する時は、其種族甚だ多く、殆ど分類に困ひといへども、皮膚、毛髮、頭蓋骨等の形質より大別

して黃、白、褐、赤、黑の五種となす、其容貌、特色は、各條下に記せる所なれども、今其主なる住所員數を概算するに、黃、白の二種最も多くして、合して全人口の八割を占む、黃人種は、其數六億、日本、支那、朝鮮、土耳其、印度、支那、亞細亞の東北大部、歐洲の東南部、葡牙利を住所とす、白人種は、其數六億四千萬、歐米諸國人、殆んと之に屬し、歐洲、北米、亞剌比亞、印度、濠洲、海岸を此人種の住居とす、黑人種の數は、一億九千餘、亞弗利加中部、濠洲中部の土人之に屬し、同地方を其主要の住地とす、褐色人種は、其數五千萬餘、馬來人種之に屬し、馬剌加半島、東印度諸島、マダガスカルを主なる住所とす、銅色人種は、北米加奈陀、メキシコ、南米中部の土人之に屬し、同所を主要の住所とす、其數、僅に一千五百萬餘に過ぎず、之によりて、我等は、現時世界の舞臺は、黃、白兩人種の支配する所なるを知るべく、特に白人種の强勢を認めずんばあらず、由來、黃人種は、實質沈痛にして思慮

に長じ、文學、美術、道德に、堪能なるを以て、勝り、白人種は性快活にして敢爲の氣象に富み、思想緻密なるを以て稱せらる。理學、工藝、法律に於て、著しき功績を擧げたり。我等が、今日文明の利器として使用する汽車、汽船、電信、電話等、皆白人種の創意にかゝれり。

宗教

時の古今、洋の東西に論なく、苟も人類の力及ばざるものに逢へば只管之を尊崇して、歸依せんことを希ふものなり。これ宗教の依て起る所以なり。特に人智の進まざる蠻民には、日月、風、雨、雷、獸の類に至るまで、尊敬崇拜するものあり。今宗教中最も廣く世に行はるゝ者を、佛教とし、亞細亞は其重なる傳播所たり。教祖を釋迦牟尼佛といふ。我紀元前三百六十七年、印度に起る。原因結果の理を過去、現在、未來に求め、勸善懲惡を道理的に說示すると同時に、終局の目的は、人世を解脫して、開悟の域に達せしむるにありといふ。次に、廣く行はるゝを、基督教とし、歐米諸國

の人民、多く之に歸し、教祖を耶蘇基督といふ。我紀元六百五十七年、猶太（今の亞細亞土耳其）のヴィフレムに生る。歐米人は、此國生を以て、紀元と定め、此年を耶蘇紀元元年とす。耶蘇基督、三十歲にして布教するに至り、愛に創て、基督教起る。卽ち、全智全能なる一神教を信じ、基督を以て救世主の降生とし、博愛を以て主義とし、神意に叶ひ、天國に至り、永遠の福樂を受けんと云ふにあり。此宗教に三大派あり。其一は舊教にして、天主教と稱し、伊太利の羅馬法王を教長として、教會の儀式、教義、一に其管治にあるものなり。歐洲南部、南米に行はる。一は新教と稱し、舊教に離叛して、法王の管治を脫し、虛禮を省き、經典を自由に解釋し、新に教義を定めたるものなり。歐洲中部、北部、北米、濠洲の人民之を信奉す。一は希臘教にして、之を正教と稱し、舊教と大同小異にして、希臘教長の管下にあるものなり。露國は、卽ち希臘教にして忠實なる信徒なり。基督教は、猶太教と其

本を一にする一神教なりしが、太古より豫言者等ありて、救世主の降生せんことを豫言せり。耶蘇基督、布教するに至り、之を救世主と信じたるは、耶蘇教信徒にしす、基督を以て救世主と認めずして、今猶眞の救世主は降らずとて、之を待つ者は、即ち猶太教法なりと云ふ。回々教は、以上の二教を折衷して、創始せる所のものにして、經文をコーランと云ふ。教義と修行とを細かに規定せり。教祖をマホメットといふ。我紀元千三百三十年、アラビヤに起る。西部亞細亞北部亞弗利加の民多く之に歸す。以上基督教、猶太教、回々教を世界の三大神教と稱す。其他、印度地方に行はるゝバラモン教、野蠻人種の間に行はるゝ巫教多し。此等の中には、固陋の形式を具へ、日月火水を拜し、或は、魚介、昆蟲を崇拜し、猛獸毒蛇の中に身を投ずるものあり。

政體　我等が見たる多くの國々は、其政治を行ふ上に於て、種々異りたる組織を見る。今、之を大別して二となす。若政國及び民政國これなり。君政國とは、支那、露西亞、英吉利の如く、世襲の帝王、上に在りて一國を統治するものをいひ、民政國とは、佛蘭西、亞米利加合衆國の如く、別に帝王なく、國内より德望ある人を公選して一國の政務を委任するものをいひ、其公選せられたる人を大統領と稱す。

又、政務を執行するに當り、一國の憲法を定め置きて、統治者も、之に遵ひて政事を行ふと、君主一人にて萬機を裁決し、毫も他の制裁あるなく、國君の意は、即ち國の法律たるものとの二種あり。甲を立憲國といふ。我日本の如きは、立憲帝政國にして、佛國、合衆國の如きは、立憲共和國なり。乙を專制國といふ。支那、朝鮮、露國の如きこれなり。かゝる政體は、多く半開國に見る所と知るべし。

第三十九課　結論二

注意　此課に於ては、主として、地球上動植物の分布、及び雨風等を授くるものとす。

前已に授けたる動植物を總括して、地球上、五帶の氣候の寒暖に關し、生物分布の一定せること、兼て、氣候と人民の動惰との關係を說き、併せて土地の狀勢、風雨に影響を及ぼすことを說示するに注意すべし。

我等の見たる如く、動植物は、土地の寒暖に從ひて、其種類を異にせり。寒帶地方の動物は、馴鹿・白熊・鯨・海豹・膃肭獸等、僅に數種に過ぎずして、植物も、唯、蘚苔・灌木の類を見るのみ。之に反して、熱帶は、動植物の繁殖甚だ盛にして、動物には、獅子・虎・象・犀・大蛇・鰐・鴕鳥・孔雀の如き、猛獸・奇禽甚だ多く、植物は、椰樹・棕櫚・檳榔・芭蕉・幾那・珈琲・甘蔗等、大に繁茂す。溫帶は、此中間に位し、稍、趣を異にす。動物は牛・馬・羊・豚・鷄・鹿等有用のもの多く、

植物は松・杉・檜等の良材、及び棉・桑・烟草・稻・麥・葡萄等の農作物多し。

地球五帶ノ動物分布

雨は、水蒸氣の凝結して生ずる者なれば、空中に水分多き處は、降雨の量大なり。されば、海岸近き處は、多雨にして、大陸の內地は、少雨なり。又、雨は熱帶に多くして、兩極に

近づくに從ひ、次第に減少す。

地球五帶ノ植物分布

風は、土地により、方向・性質とも、一樣ならず。赤道附近は、常に靜穩なれども、他の部分には、貿易風行はれ、北半球にては、東北風、南半球にては、東南風の吹くを常とす。但し、地上には、山脈

の起伏、氣候の變化等あるが故に、風も其影響を受け、時と場所とにより、性質と方向とに、著しき相違あり。

參照 我等が世界周航の際、處に從て動植物の種々なるを見、珍禽奇獸の多く、異草美木の夥しきに驚きたり。今此等動植物の分布に就て考ふるに、皆一定の場所にありて、生活せるを知るべし。極地の鯨は、暖海に見る能はざるが如く、熱帶の椰樹・芭蕉は寒帶に生せず。これ土地の高低氣候の寒暖、生存競爭の間に、動植物の移住し得る力等、各異なるにより、永き年月を經て、其地方に最も適したるものゝ繁榮するに至れるなり。此等諸種の事情中最も主要なるものは氣候なり。氣候の寒暖に從ひて、其種類を異にせり。即ち地球の南北寒帶・南北温帶・熱帶の五つにより、動植物も略之に從ひて分るゝを見る。寒帶地方には、馴鹿・白熊の外多く見ず。其海には、鯨・海豹・鰞・鰊・獺等の產あれど、値に數種に過ぎず。植物も亦甚だ

少く、唯蘚苔類木の類を見るのみなれとも、之に反して、熱帶は動植物共に其繁殖甚だ盛にして、種類一層の多きを加へ、巨大なるもの、美麗なるもの、野に山に、川に海に、充つるを見るべし、即ち動物には、獅子・虎・象・犀・大蛇・鰐・魚・鱷・鳥・孔雀の如き、猛獸・巨獸・毒蛇・奇鳥甚だ多く、植物は、温熱強く濕氣多きを以て、其繁茂非常にして、森林には樹木蔓草密生し、其常綠にして、洞大に、花の色は濃厚に、果實は甘美に、香料は芳香なり、即ち椰樹・棕櫚・檳榔・芭蕉・幾那・珈琲・甘蔗・鳳梨・竹・米等は特產物なり、棉・藍の類も亦多益なり、温帶は其中間に位し、稍〻趣を異にす、動物は、牛・馬・豚・鹿等强猛の者より、寧ろ有用の者多く、鳥類は鷄の如き有用の者にして、其他羽毛の美麗なるものよりも、音聲の美なる者多し、植物は、松・杉・檜等の良材、其他落葉木多く、又熱帶の如く猶ほ米・竹・藍等を產すること我國の如きありと雖、も、桑・烟草・麥類・葡萄等の農作物多く、温帶には重要の家禽に富み、人生必需の栽培物繁殖す、

又、熱帶地方は前述の如く、天然物豐なれば、勞せずして衣食を得るが爲に、人民遊惰に流る、さるに又、寒帶の民は勞すれとも得ること少く、苦て餘裕あることなし、共に文明の進歩を妨ぐ、獨り多幸なるは、温帶の民なり、其勤勉と工夫とを積みて、人類の生活を進むるに適合し、我國及び其他の文明國は、皆此温帶にあり、唯伊太利の如きは、天然の恩惠に依賴して安逸に流れ、寒風積雪と戰ふ露國の人民は、自然の狀勢により、剛毅にして、堅忍の性を養ふに至るを見れば、氣候は、亦以て人民の動惰に關し、從て文野に影響するものなり、

雨

雨は、多量の水蒸氣を含める、熱き空氣の冷ゆるに方り、水蒸氣の幾分收縮するに因るものにして、若し其收縮の前に、俄に寒冷に逢ふときは凍りて雪となり、又雨の降る際、空中にて凍れば霰となる、故に空中に水

蒸氣多き處は降雨の量大なり。其他の氣候によりて雪となり、霰となるものなり。山岳地勢風向の如何により、降雨の期に差あること甚しく、海岸近き處は、多雨にして、大陸の内地は少雨なり。濠州の海岸には、冬期に雨多く、亞米利加合衆國の東部には、春秋の際、降雨の量多きを見る。而して、亞弗利加の北部より、中央亞細亞に亘りて、全く雨降らざる地方あり。これ、濕氣を帶びたる空氣を、遮斷する大山脈のあるありて、これ等の濕氣を放下せしむるにより、降雨の内部に入るものなきに原因せり。此邊にサハラ、ゴビの如き大沙漠を見るも、必竟是が爲なり。雨は又熱帶地方に多量にして、寒帶地方に少し。これ、熱帶地方は、氣候炎熱にして、雨を作るべき水蒸氣の上騰甚だ多ければなり。又同地方に於ても、時期により、て多少あり。即ち熱帶地方にては、前半季は降雨多く、後半季は雨量少し。これ、地球が、南回歸線地方に、太陽の直射を受くるが故に、印度洋上の水分に富める空氣、雨を齎すこと多く、之に反して、北回歸線地方に、太陽の直射を受くるに逢へば、北方の山地、沙漠地方より送り來たる空氣乾燥にして、濕氣を齎さゞるによるなり。我國の如きは、夏の初めに梅雨多きは、即ち熱帶地方より、吹き來る風の水蒸氣を送り來たるが爲めなり。

風

一歲中吹く所の風も、其場所によりて略、一定し、土地に從ひて、相異るを見る。赤道の附近は、常に靜穩なれども、熱帶は貿易風の吹く所にして、赤道以北、即ち北半球にありては、東北の風常に吹き渡り、以南、即ち南半球にありては、東南の風絶ゆることなし。而して、温帶には、南北の風多く寒帶には西風あり。何故に此の如きか。抑風は、空氣の壓力不平均より起るものなり。此不平均を起すものは、温度の高低と濕氣の多少とを主要の原因とす。今地球の五帶に就て、温度と濕氣との如何を考ふるに、熱帶の中央は、炎熱最も甚しく、從て濕氣多ければ、空氣の壓力甚だ弱きに反

し、寒帶の地方は、氣候甚だ寒く、從て濕氣少く、空氣の壓力最も强し、此に於て、空氣の壓力不平均を生じ、以て風を起す、卽ち熱帶地方の空氣は、壓力弱くして輕きが故に、上方に昇り、上際に於て二派に分れ、其一方向赤道より南北に向ひて吹き、寒帶及溫帶の空氣は壓力强く重きが故に、熱帶地方の虛を補はんとして、下層を南北より赤道に向ひて吹くべし、熱帶に到れば、亦熱せられ上方に昇る、上方より、南北に向へる空氣は、漸く其熱を失ひて重くなり、下層に降りて、更に復赤道に向ひて歸り、僅に其一部の尙は極地に向ふのみ、此の如く常に冷熱の空氣、循環交代し、南北溫帶地方に於ては、常に赤道の方向に吹く風あり、其貿易船の航海に、大なる便益を與ふるを以て、之を貿易風と稱す、此貿易風の方向は、赤道の南にては正北に、赤道の北にては正南に向ふべき歟なれども、實際は然らず、地球は西より東に回轉して止まざるが上に、其回轉の速度、赤道に最

大にして極地に最小なり、故に、極地より赤道に向ふ風は、漸次に速度大なる地方に向ふに從ひ、其回轉に伴ふこと能はずして、次第に後れ、遂に赤道以北にては、正南に向はずして西南に變じ、以南にては、正北に向はずして西北に變じ、卽ち東南風となるに至る、此等の風は、進みて赤道附近に至り、此に熱せられて上昇するが故に、常に靜穩となる、又上方に昇りたる上層風は、溫帶地方に至りて、漸次寒冷となり、地面に接近するに至れば、こゝに二派に分れ、一部は、赤道に向ふ風と共に、復赤道に歸り、一部は猶ほ極地に向ひて吹くべし、然るに前に云へる如く、地球の回轉は、極地に至るに從ひ速度小なれば、速度の大なりし地方より、極地に向ふ風は、遂に西風に方向を取るに至れるなり、以上云ふ所は、主として大洋のみ、陸地にありては、山脈の起伏するあり、沙漠あり、內海あり、氣候の變化等あるが故に、風も其影響を受け、方向に遮

害あると共に、空氣の壓力を支配する、種々の事情を生ずるを以て、時と場所とにより、性質と方向とに著しき相違ありて、かゝる一般の規則に從はず。

第四十課　結論三

注意　此課に於ては、主として地球の形狀、日月と地球との關係、及び此等の運行より、無數の星辰に及ぼし、天體の廣大無邊なるを知らしめ、以て之を究むる人心の靈妙なる、人智の無極なる、宜しく此至寶を琢磨して、光輝を發揚せしむべきを說き、以て此科を結ぶべし。

地球は、略球形をなし、恰も月の如く、空際に懸り、太陽より、熱と光とを受けて、其周圍を運行す。太陽は、廣大なる火球にして、其大さ、地球の數十萬倍に達す。月は、地球の五十分一の大さを有し、地球を中心として廻轉し、相共に太陽の周圍を運

行す。

暗夜仰ぎて、天を望めば、無數の小星、燦爛として、輝けるを見る、彼等の多くは、實際太陽の如く大なりと云ふ。然らば、かく無數の星を、包める宇宙は、如何に廣大なるか。到底、我等が想像し難き所にして、我地球の如きは、之を宇宙より見るときは、海上の一粟たにも及ばざるべし。況や、地上に生活する我等が身體をや。されど、人の心は、萬物を知り、天外に遊びて、往かざる處なく、到らざる處なし。我等は宜しく、學を修め、德を磨き、心の靈光を宇宙に發揮せんことを勉むべきなり。

參照　地球は、略球形をなし、恰も月の如く、大空の間に懸れり。然れども、地球は正圓にあらず、今其大さを考ふるに、南北の直徑七千八百九十九英里、東西七千九百二十六英里にして、其間は二十七英里の差あるを見

る。これ、地球の正圓ならずして、多少の楕圓をなす所以なり。而して其楕圓形をなすは、地球の自轉に基因する者なり。地球は、此の如く自轉し、太陽より熱と光とを受け、之を中心として其周圍を運行す。太陽の周圍を距る遠近によりて、近きものより列擧せんに、水星は第一にして、次に金星地球火星木星土星天王星海王星と次第す。之を八惑星といふ。總て、太陽を中心として、回轉運行すること地球と異らず。太陽を中心として、回轉運行する惑星の一團を太陽系と稱す。我等、海葬西天に一大星の金光を認むるは、これ金星なり。金星は、地球に最も近く、大さ地球の五分の四なれば、略、相似たりといはん。然れども、木星の如きは、千四百十四倍の大さに達すといふ。豈に驚くべきにあらずや。然るに、太陽は、此等八惑星を合一したるものよりも、更に大に、地球の百二十萬倍に當れる一大火球なりといふ。然れども、猶ほ我等に一小盤の如く見ゆるものは、其距離甚だ遠く、九千二百萬英里を隔つればなり。

月は、太陽に比すれば、甚だ小に、僅に六千萬分の一に過ぎず。されども、其距離近きを以て、猶ほ大きく見ゆるものにして、卽ち地球の五十分の一なり。我地球が太陽を中心として回轉する如く、月は地球を中心として回轉し、又地球の回轉に從ひて、太陽の周圍を運行するなり。此の月の如く、惑星に附屬せる小星を、衛星といふ。

我等、暗夜仰ぎて天を望めば、幾百萬の星辰、燦爛として輝き、大空に懸かるを見るべく、更に望遠鏡を假りて、之を窺ふ時には、尙ほ無數の星辰を發見すべし。此等多數の星辰は、多く我太陽の如く大にして、想ふに、地球の如き惑星數多其周圍を運行するならんといふ。されば、かく無數の星辰を包める天外、更に天あり、數多の太陽系を證れるものならんか。宇宙の、如何に廣大無邊なるか、到底我等の想像し難き所にして、我地球の如

き、之を宇宙の廣大なるに比すれば、大海の一滴だにも及ばざるべし、況んや、地球の一部に、幾億群をなして生活する、吾人人類の身體をや、其微、其細、計るべからざるなり、然りといへども、人心の靈妙なる、此亦天外無邊の、境に遊び、往かざる處なく、到らざる處なく、森羅萬象細大となく、收めて方寸の中にあり、君等、宜しく學を修め德を磨き、此靈妙なる至寶を修養し、以て心神の光輝を、宇宙に掲揚し、日月と共に、萬歳流るることなからんことを勉むべし。

小學地理卷三　萬國地理教員用　終

明治三十四年一月十五日印刷
明治三十四年一月十八日發行
明治三十四年十月廿一日訂正再版印刷
明治三十四年十月廿四日訂正再版發行

小學地理教員用　全四冊

定價	
卷一　日本地理上　金三拾五錢	
卷二　日本地理下　金三拾九錢	
卷三　萬國地理　金五拾錢	
卷四　補習地理　金四拾錢	

編者　學海指針社　東京市日本橋區通油町十六番地
發行兼印刷者　株式會社　集英堂　東京市日本橋區通旅籠町十一番地
代表者　右社長　小林清一郎
印刷所　株式會社　集英堂活版所　東京市神田區柳原河岸十二號地

著作權所有

2
4
50

特 20
610

小学地理
3

国立国会図書館

021967-000-7

特20-610

小学地理　教育用巻3　万国地理

学海指針社／編

M34

ADA-0217